ウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトの「株主･投資家情報」では、決算短信等のIR情報をご覧いただけます。

https://www.kawada.jp/ir/　川田テクノロジーズ　検索

TOPページ

IRページ

IRカレンダー

第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	決算発表（2022年3月期）		第14回定時株主総会	第1四半期決算発表（2023年3月期）			第2四半期決算発表（2023年3月期）			第3四半期決算発表（2023年3月期）	

KAWADA technologies

KAWADA GROUP ANNIVERSARY

おかげさまで川田グループは創業100周年を迎えました

KAWADA REPORT

第14期 株主通信

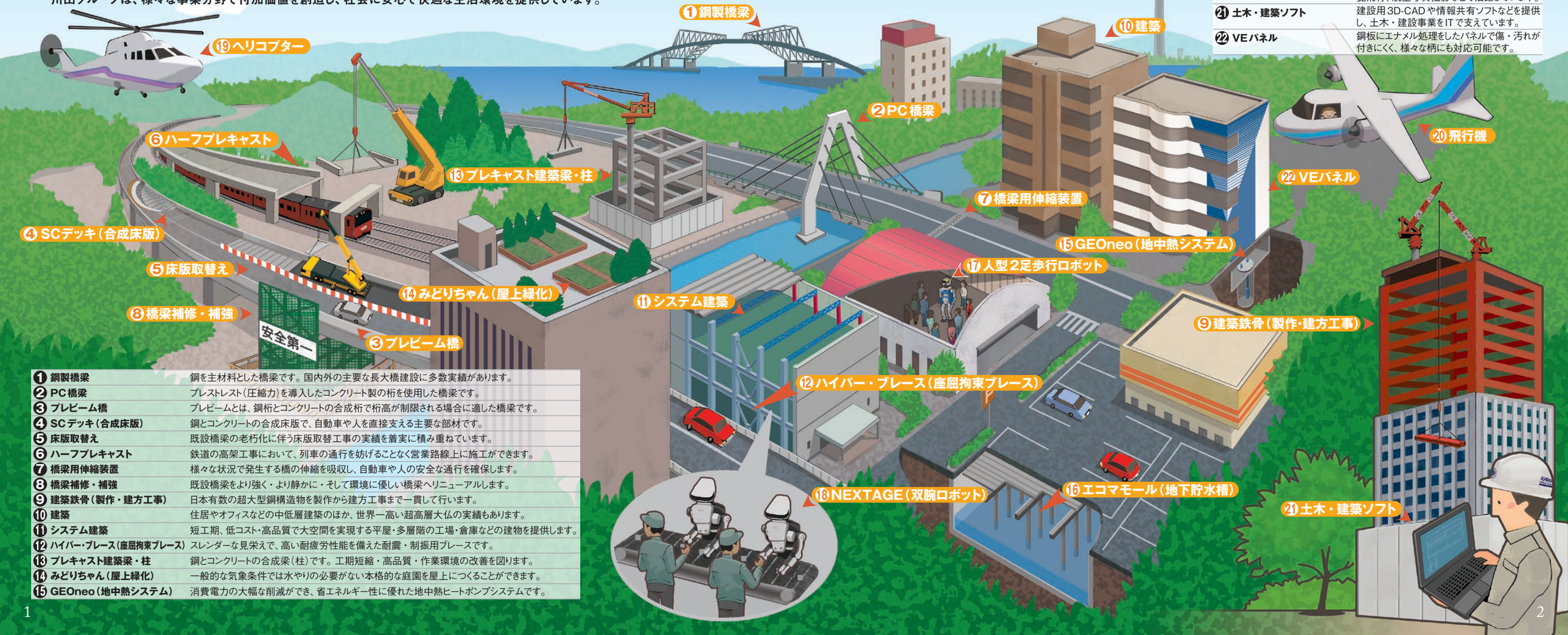
2021年4月1日 >>> 2022年3月31日

証券コード：3443

事業紹介

幅広い分野に広がる川田グループの ビジネスフィールド

川田グループは、様々な事業分野で付加価値を創造し、社会に安心で快適な生活環境を提供しています。



❶ 鋼製橋梁	鋼を主材料とした橋梁です。国内外の主要な長大橋建設に多数実績があります。
❷ PC橋梁	プレストレスト（圧縮力）を導入したコンクリート製の桁を使用した橋梁です。
❸ プレビーム橋	プレビームとは、鋼桁とコンクリートの合成桁で桁高が制限される場合に適した橋梁です。
❹ SCデッキ（合成床版）	鋼とコンクリートの合成床版で、自動車や人を直接支える主要な部材です。
❺ 床版取替え	既設橋梁の老朽化に伴う床版取替工事の実績を着実に積み重ねています。
❻ ハーフプレキャスト	鉄道の高架工事において、列車の通行を妨げることなく営業路線上に施工ができます。
❼ 橋梁用伸縮装置	様々な状況で発生する橋の伸縮を吸収し、自動車や人の安全な通行を確保します。
❽ 橋梁補修・補強	既設橋梁をより強く・より静かに・そして環境に優しい橋梁へリニューアルします。
❾ 建築鉄骨（製作・建方工事）	日本有数の超大型鋼構造物を製作から建方工事まで一貫して行います。
❿ 建築	住居やオフィスなどの中低層建築のほか、世界一高い超高層大仏の実績もあります。
⓫ システム建築	短工期、低コスト・高品質で大空間を実現する平屋・多層階の工場・倉庫などの建物を提供します。
⓬ ハイパー・ブレース（座屈拘束ブレース）	スレンダーな見栄えで、高い耐疲労性能を備えた耐震・制振用ブレースです。
⓭ プレキャスト建築梁・柱	鋼とコンクリートの合成梁（柱）です。工期短縮・高品質・作業環境の改善を図ります。
⓮ みどりちゃん（屋上緑化）	一般的な気象条件では水やりの必要がない本格的な庭園を屋上につくることができます。
⓯ GEOneo（地中熱システム）	消費電力の大幅な削減ができ、省エネルギー性に優れた地中熱ヒートポンプシステムです。

⓰ エコマモール（地下貯水槽）	雨水を一時的に地下に貯留することで、都市環境や人々の生活を水害から守ります。
⓱ 人型2足歩行ロボット	自力で立ち上がる!! 世界トップレベルの2足歩行ヒューマノイドロボットです。
⓲ NEXTAGE（双腕ロボット）	ヒトと共存して働くことのできる製造現場用途向けの作業ロボットです。
⓳ ヘリコプター	報道や救助の現場で活躍中です。伊豆諸島の島々を結ぶ定期便も毎日運航しています。
⓴ 飛行機	東京（調布）と伊豆諸島を結ぶ定期路線や遊覧飛行、航空写真撮影などで活躍しています。
㉑ 土木・建築ソフト	建設用3D-CADや情報共有ソフトなどを提供し、土木・建設事業をITで支えています。
㉒ VEパネル	鋼板にエナメル処理をしたパネルで傷・汚れが付きにくく、様々な柄にも対応可能です。

創業から100年——変化の大きい時代だからこそ当社の理念を軸に据えて着実に成長を続けます。

この度、川田グループが100周年を迎えることができたのは、株主の皆様の厚いご支援があっての賜物だと感謝しております。

今、大きく変化する時代の節目に立ち、創業の精神、社訓、そして経営理念を踏まえ、当社グループは技術力を高めながら、確実に、そして大胆に進化しようとしています。

ここに2022年3月期の営業状況をご報告し、第2次中期経営計画の状況をご説明いたします。ぜひご一読いただきたく、お願い申し上げます。

代表取締役社長
川田忠裕

Q 2022年3月期の営業状況をご説明ください。

A 従来のセグメントは堅実に、新設のソリューションセグメントでは大幅な増収増益になりました。

「第2次中期経営計画」の2年目が終了し、営業利益は64億円、自己資本比率は53.2%と大幅にアップし、概ね順調に推移いたしました。

中核事業である鉄構セグメントと土木セグメントでは、新設の大型工事が前期に集中的に竣工したことで、当期の売上高は伸び悩みましたが、設計変更の獲得が功を奏し、営業利益は高い水準を維持することができました。

建築セグメントについては、新型コロナウイルス感染症による影響や厳しい受注競争が続く中で、繰越工事の減少と採算性の低下に加え、一部採算性の厳しい工事で工事損失引当金を計上したことで売上高、営業利益ともに低迷しました。しかし下半期に複数の大型物流施設の受注をするなど復調の兆しが出てきております。

当期から新設したソリューションセグメントでは、土木分野のソフトウェアの販売や設計受託事業などを行っています。当期はソフトウェアのサブスクリプション化を進めたことやM&A効果などもあり、売上高、営業利益とも大幅に増加しました。

昨今の国内雇用動向を見た場合に、建設業をはじめ、製造業、物流など、あらゆる場面で人手不足は深刻化しており、ICTを使った効率化、RPAの活用、ロボット技術による省力化などのニーズの高まりはますます顕著になっています。ソリューションセグメントは他産業へも応用が可能で、当社グループにとって新たな事業の柱として、着実に実力を伸ばせた1年だったと思います。

その他セグメントは航空関連事業2社が中心です。事業環境は改善が見られたものの、新型コロナウイルス感染症による影響や燃料の高騰など厳しい事業環境が続いておりますが、引き続き、社会貢献の一翼を担えるように努めてまいります。

Q グループ100周年を迎え、今の思いと今後への目標をお聞かせください。

A それぞれのセグメントを自在に繋いで時代に即した経営を追求します。

1922年に私の曾祖父・川田忠太郎が小さな鐵工所を始めました。これが当社グループの始まりで、以来、戦争や終戦後の混乱期、高度成長期、バブルの崩壊など、様々な社会変動の中、成長を続けてまいりました。

この100年を振り返ると、創業時の鍛冶屋という仕事に留まっていたら、今の川田グループは存在しなかったと思います。戦後復興で道路を必要とした時代に、鋼製橋梁という分野に進出しました。また私の父・忠樹が欧州視察の際にコンクリート橋が多いことに気がつき、1970年代からはコンクリート橋梁の事業に取り組みました。同時期に業界でいち早く橋梁の設計にコンピュータを導入し、1980年代以降は航空事業にも進出しました。

その時代において、何が必要とされているのかを見極め、ある意味、非常に背伸びしてやってきた会社ではありますが、そこには目的と手段についての考え方があります。

例えばA地点からB地点にものや人を運ぶという目的があれば、手段としては飛行機でもよいですし、橋でもよいのです。当社グループは鉄の橋だけ、コンクリートの橋だけではなく、両方を作りますし、両者の良さを掛け合わせたハイブリッドの橋を作ることもできます。こうした構造物を作る私たちの技術は、将来的には海洋構造物や土砂崩れを防ぐ防災構造物など、目的の異なる様々な分野に応用できると考えています。

当社グループの社訓は「誠実、技術、確実」です。現在、手がけている仕事は確実にしっかり実行する。そして、専門の枠にはまり過ぎず、それぞれのセグメントに横串を通して、新たなものにチャレンジしていく。これを続けてきたのが川田グループであって、100年の歴史を歩んできた力の源は、まさにここに尽きるのではないかと思います。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 中計最終年度に向けた確実な事業展開と次の100年に向けた行動を進めます。

株主の皆様への利益還元については、将来への成長投資を含む設備投資と財務体質強化のための内部留保とのバランスを取りながら、安定した配当が行えるように努力してまいります。当期につきましては1株当たり普通配当80円に創業100周年の記念配当20円を加え、合わせて100円とさせていただきました。

「第2次中期経営計画」の最終年度となる今期（2023年3月期）は、売上高1,160億円、営業利益40億円を見込んでおり、これを達成できれば目標としている3年間平均での利益と自己

資本比率を達成することができます。そのためには、高騰している鋼材価格などをはじめとした資材費、輸送コストを請負価格に転嫁できるような動きが重要になります。これらを慎重に見極めつつ、吟味しながら事業活動を進めてまいります。

最後に川田グループの次の100年に向けての思いを、ひと言申し上げます。

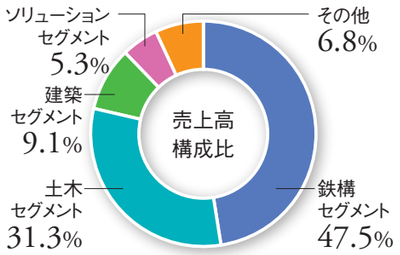
「いつの時代にも技術をもって社会に奉仕すること」が創業以来、私たちの使命です。そして「安心で快適な生活環境の創造」が当社グループの企業理念であり、事業目的です。それをしっかりと続ける中で、社員がやる気と誇りを持って仕事をし、結果的に利益が伸びるという形を理想としています。これが当社グループのESG経営であり、SDGs達成に向けたアクションです。

大きな時代の節目に来ていますが、協力会社様をはじめすべてのステークホルダーの皆様とともに、世の中に存在が望まれる企業を目指して、これからも真っ直ぐに進んでいく所存です。株主の皆様方の厚いご支援とお力添えを、引き続きよろしくお願い申し上げます。

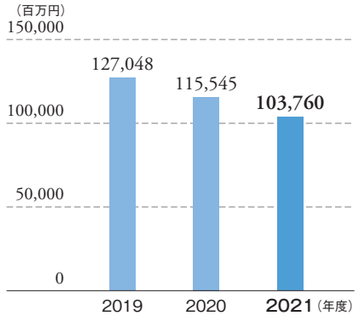
連結業績ハイライト

当期の決算ポイント

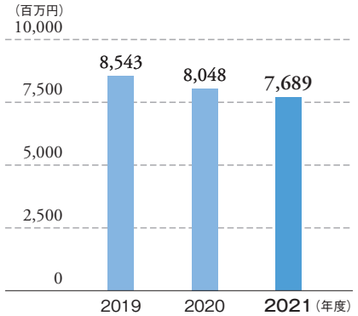
- 鉄構セグメントの鋼製橋梁において、大型工事の竣工が前期に集中した反動により売上高は減少
- 営業利益は増加したものの、持分法投資利益の減少により経常利益・当期純利益は減少
- 受注高は鉄構セグメントでの減少を建築セグメントでカバー
- 1株当たり100円（普通配当80円+記念配当20円）の期末配当



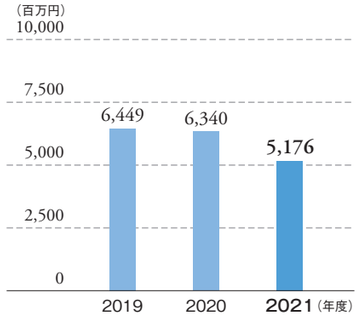
売上高



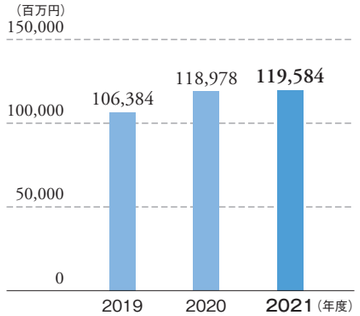
経常利益



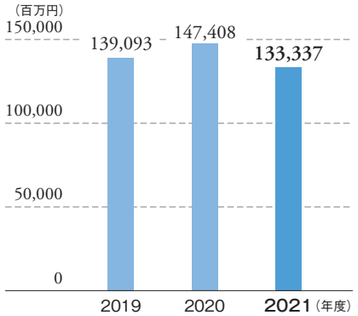
親会社株主に帰属する当期純利益



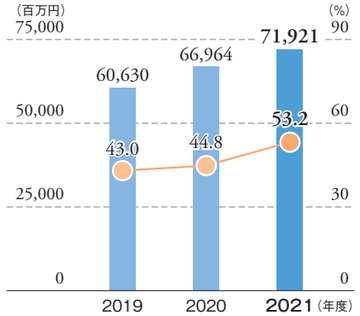
受注高



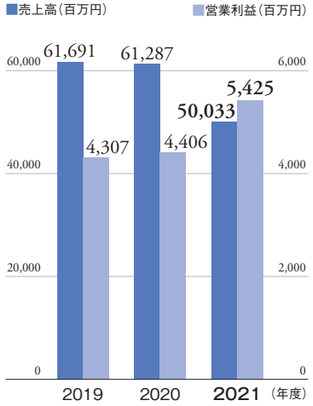
総資産



純資産／自己資本比率



鉄構セグメント



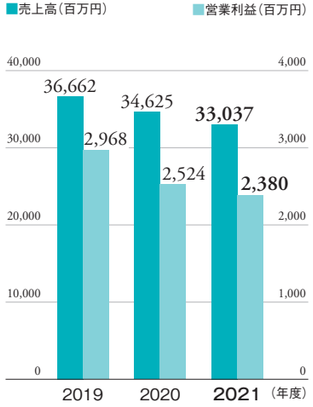
売上高 50,033百万円　営業利益 5,425百万円

売上高は、橋梁事業において新設の大型工事が前連結会計年度に集中的に竣工したことの影響により減少し、鉄骨事業においても首都圏再開発案件の一部工事の工程が大幅に延伸したことにより、50,033百万円（前連結会計年度61,287百万円）となりました。損益面では、橋梁事業と鉄骨事業において設計変更の獲得及び原価改善に伴う採算性の改善により営業利益5,425百万円（同4,406百万円）となりました。

主な連結子会社：川田工業株式会社

福岡208号 筑後川橋上部工(P4ーP8)工事
(九州地方整備局)

土木セグメント



売上高 33,037百万円　営業利益 2,380百万円

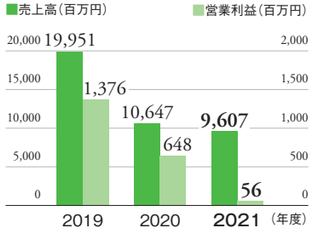
売上高は、更新事業及び保全事業を中心に工事が順調に進捗したものの、新設事業での減少を補うまでに至らず、33,037百万円（前連結会計年度34,625百万円）となり、損益面につきましても、営業利益2,380百万円(同2,524百万円)といずれも前連結会計年度実績に届きませんでした。

主な連結子会社：川田建設株式会社

下塩原第一橋梁(栃木県)

(注) P7ー8のセグメント業績につきましては、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。

建築セグメント



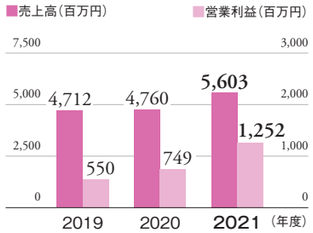
売上高 9,607百万円　営業利益 56百万円

売上高は、繰越工事の減少に加え、当連結会計年度前半での受注が伸び悩んだことにより、9,607百万円（前連結会計年度10,647百万円）となり、損益面では厳しい受注競争が続く中で、手持ち案件の採算性の低下により営業利益56百万円（同648百万円）となりました。

主な連結子会社：川田工業株式会社

王子第一小学校新築工事(東京都北区)

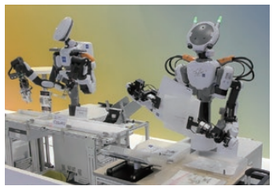
ソリューションセグメント



売上高 5,603百万円　営業利益 1,252百万円

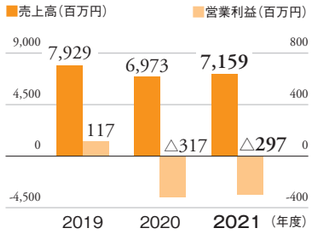
ソフトウェア関連事業及び設計受託事業が順調に推移したことに加え、収益認識会計基準等の適用により収益認識方法を一部変更した影響もあり、売上高5,603百万円(前連結会計年度4,760百万円)、営業利益1,252百万円(同749百万円)といずれも大幅に改善いたしました。

主な連結子会社：川田テクノシステム株式会社／カワダロボティクス株式会社



NEXTAGEシリーズ
最新機種「NEXTAGE Fillie」(写真右)

その他



売上高 7,159百万円　営業損失 △297百万円

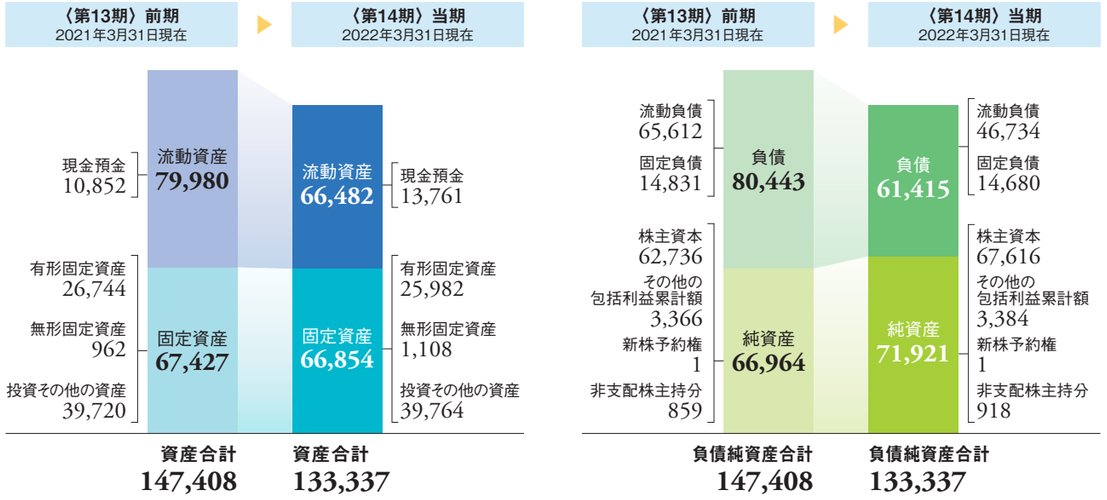
航空関連事業において改善が見られたものの、橋梁付属物の販売が前連結会計年度を下回ったことで売上高は7,159百万円（前連結会計年度6,973百万円）、営業損失297百万円（同営業損失317百万円）となりました。

主な連結子会社：株式会社橋梁メンテナンス／東邦航空株式会社／新中央航空株式会社

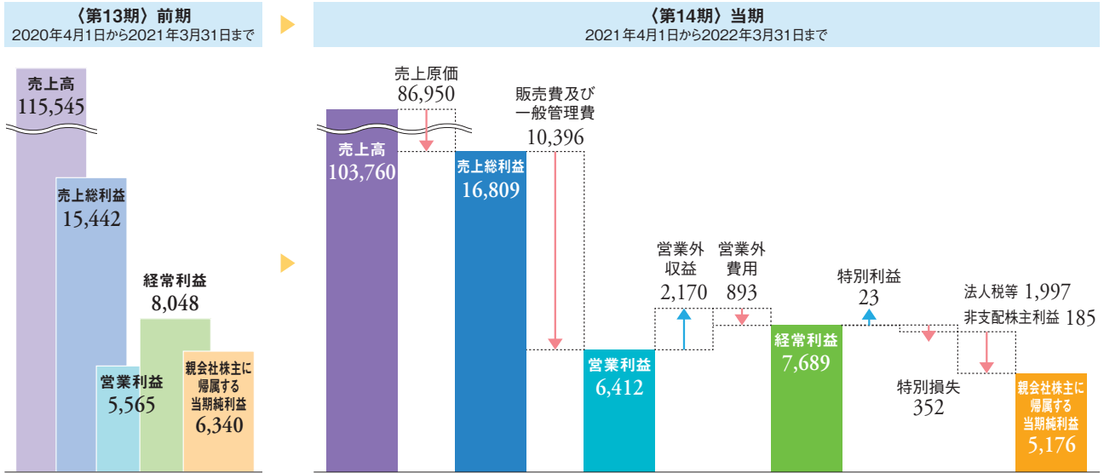
高知県消防防災ヘリコプター
(レオナルド式AW139型・JA06FD号機)

(注) 当連結会計年度より「その他」に含まれていた「ソリューション事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しています。

連結貸借対照表の概要 （単位：百万円）

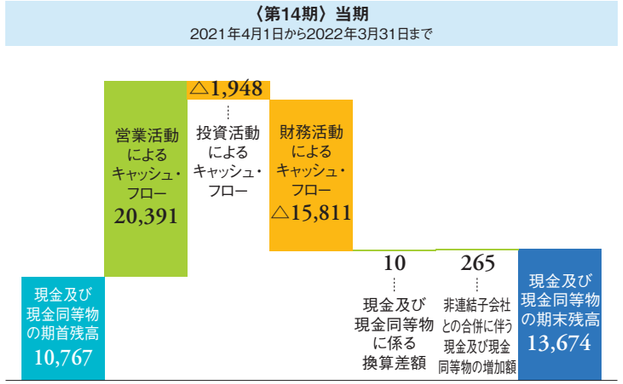


連結損益計算書の概要 （単位：百万円）



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 （単位：百万円）

（注）△印は、マイナスを示しています。



● 営業活動によるキャッシュ・フロー

20,391百万円の資金増加（前期は2,547百万円の資金減少）となりました。これは主に、売上債権の減少によるものであります。

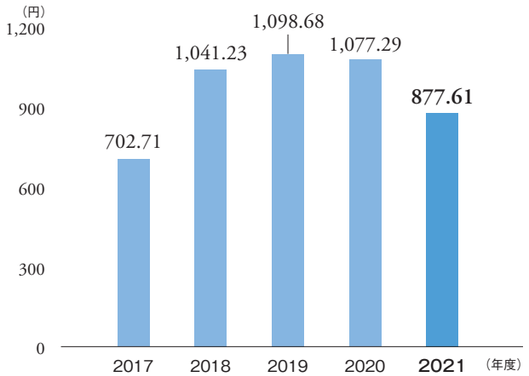
● 投資活動によるキャッシュ・フロー

1,948百万円の資金減少（前期は4,183百万円の資金減少）となりました。これは主に、設備投資による固定資産の取得等によるものであります。

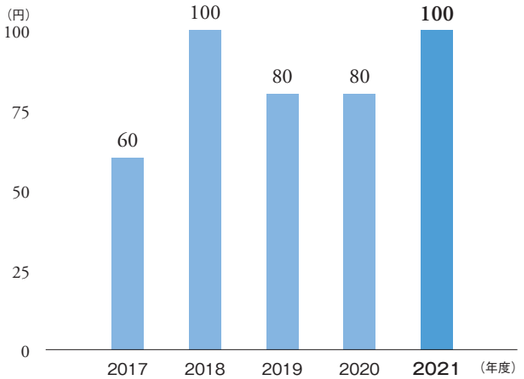
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

15,811百万円の資金減少（前期は8,220百万円の資金増加）となりました。これは主に、借入金の返済によるものであります。

1株当たり当期純利益



配当



特集

創業の精神を紡いだ100年 —これからも技術をもって社会に奉仕—

KAWADA GROUP ANNIVERSARY

鍛冶職人「川田忠太郎」が富山県福野町（現・南砺市）の地に「川田鐵工所」を創業して100年。手のひらに収まる大きさの鋼製品を作る技術は、橋梁や鉄構、ヘリコプターやヒト型ロボットなど、当初は想像もしなかったようなスケールのものを生み出す技術へと発展してきました。川田グループは創業100周年という大きな節目を新たな挑戦のスタートラインと捉え、これからも創業の精神である「誠実、技術、確実」を胸に、「独創自立」の経営の精神で日々技術の研鑽に努めてまいります。

KAWADA VISION
～10年後のあるべき姿～
グループ総合力で進化を遂げ、最強企業集団となる

顧客 / エンドユーザー / 環境 / 金融機関 / 「八方よし」の精神 / 会社 / 社員 / 取引先 / 株主

創業の精神　誠実、技術、確実
経営の精神　独創自立

グループ経営理念　「安心で快適な生活環境の創造」

創業以来、受け継がれてきた「いつの時代にも　技術をもって社会に奉仕すること」を使命とする

創業の精神と経営の精神

＜独創自立＞とは智恵をもって問題に立ち向かい、技術的な挑戦を続けることを意味する造語です。創業者の川田忠太郎が「誠実、技術、確実」という創業の精神を身を持って実践し、二代目の忠雄が経営の精神として「独創自立」を社内に定着させました。忠雄は「新しい分野に足を踏み入れる時、止めた方が良いと言うことはたやすく、もっともであると思える時もある。しかしそこからは何も生まれない」と、＜独創自立＞であり続けることの意義を語り続け、その精神は100年経った今も「川田らしさ」として社員の心に息づいています。

創業者　川田 忠太郎

二代目社長　川田 忠雄

飽くなき技術への挑戦

川田グループは橋梁メーカーとしては後発ながら、新たな工法の開発や設計にいち早くコンピュータを用いるなど、飽くなき技術への挑戦が評価され、数々のビッグプロジェクトに参画できるようになりました。国内で初めて全長1,000mを超えた「関門橋」や「瀬戸大橋」といった長大吊橋、川田グループ総合力を結集し、ヘリコプターによるパイロットロープの渡海作業を実現した「明石海峡大橋」など、脈々と受け継がれてきた新しいことに勇敢に挑戦するという精神が、その後分野を超えて「東京ドーム」や「国立競技場」さらには「牛久大仏」「GUNDAM FACTORY YOKOHAMA」などの建築物に携われることになりました。そしてICT、航空、ヒト型ロボット、環境製品など多岐にわたる事業を展開する企業集団へと成長しております。

1988年 瀬戸大橋

2019年 国立競技場
（写真提供：大成建設株式会社）

三代目社長　川田 忠樹

四代目社長　多田 勝彦

これからの100年に向かって

時代に揉まれ、社会に寄り添い、人に支えられて今日の川田グループがあります。川田グループが100年にわたって絶えず新しいことにチャレンジし続け、技術を通じて社会に奉仕してこられたのは、利己主義にならず「八方よし」の精神で、数多くの事業パートナーやお取引先をはじめとするステークホルダーとともに歩んできたからです。現在、世界は気候変動問題をはじめ、多くの深刻な社会課題に直面している中、これまでも、そしてこれからも利益を追求するだけではなく、社会問題に真摯に向き合い技術をもって社会に奉仕することを使命とし、健全な事業活動を通じて世の中に存在が望まれる企業を目指してまいります。

五代目社長　川田 忠裕

100年の軌跡

1922年
川田忠太郎が川田鐵工所を創業
挑戦の始まり
日用品製作から土木工事までなんにでも挑戦

1958年
川田が施工した現存する最古の吊橋
「プレストレス工法」を提唱。近代吊橋架設工法の先駆

1998年
グループ総合力で長大橋に挑戦
「ヘリコプターによるパイロットロープ渡海作業」を実現

2009年
川田テクノロジーズ株式会社設立 東証一部上場
グループ全体最適の追求と企業価値の最大化を目指し、持株会社を設立

2020年
「GUNDAM-DOCK」施工
18mの実物大ガンダムを動かす夢を格納庫建設でサポート

2022年
プライム市場へ
川田グループを未来につなげ、更なる成長を目指して

会社の概要 (2022年3月31日現在)

商号	川田テクノロジーズ株式会社 KAWADA TECHNOLOGIES, INC.
事業内容	鋼製・PC橋梁及び建築鉄骨の設計・製作・架設・据付、一般建築・システム建築、土木建設関連ソフトウェア開発等を営むグループ企業の経営計画・管理並びにそれらに附帯する業務
設立	2009年2月
所在地	【東京本社】 〒114-8563 東京都北区滝野川一丁目3番11号 TEL：03-3915-7722 【富山本社】 〒939-1593 富山県南砺市苗島4610番地 TEL：0763-22-8822
資本金	5,285,573,800円
決算期	3月31日
従業員数	89名（連結2,375名）

代表者及び役員 (2022年6月29日時点)

代表取締役社長	川田　忠裕		
常務取締役	渡邉　敏	■監査等委員である取締役	
取締役	川田　琢哉	取締役	岡田　敏成
取締役	宮田　謙作	取締役（社外）	髙木　繁雄
取締役（社外）	山川　隆久	取締役（社外）	福地　啓子
取締役（社外）	高桑　幸一		

川田グループの全体像

株式の状況 (2022年3月31日現在)

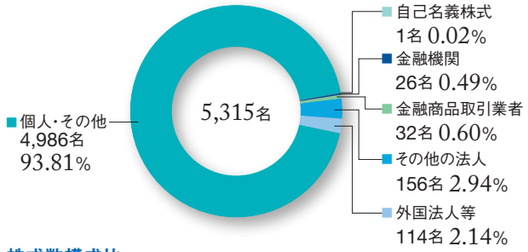
発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	5,915,870株
株主数	5,315名

大株主

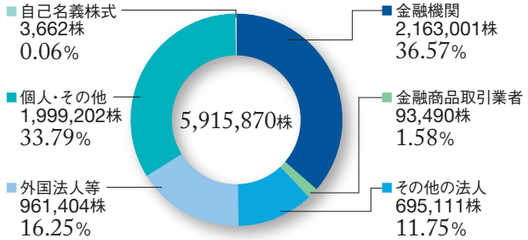
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	846	14.32
株式会社北陸銀行	284	4.82
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	279	4.73
株式会社三菱UFJ銀行	265	4.49
川田テクノロジーズ社員持株会	216	3.66
川田工業協力会持株会	197	3.34
GOVERNMENT OF NORWAY	161	2.73
富士前商事株式会社	141	2.40
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	114	1.94
三菱UFJ信託銀行株式会社	100	1.69

※持株比率は自己株式（3,662株）を控除して計算しております。

株主数構成比



株式数構成比



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人、特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	（連絡先） 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL：0120-232-711（フリーダイヤル） （郵送先） 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.kawada.jp

（ただし、電子公告によることができない事故、そのほかのやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載いたします。）

●ご注意

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求そのほか各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ります。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。